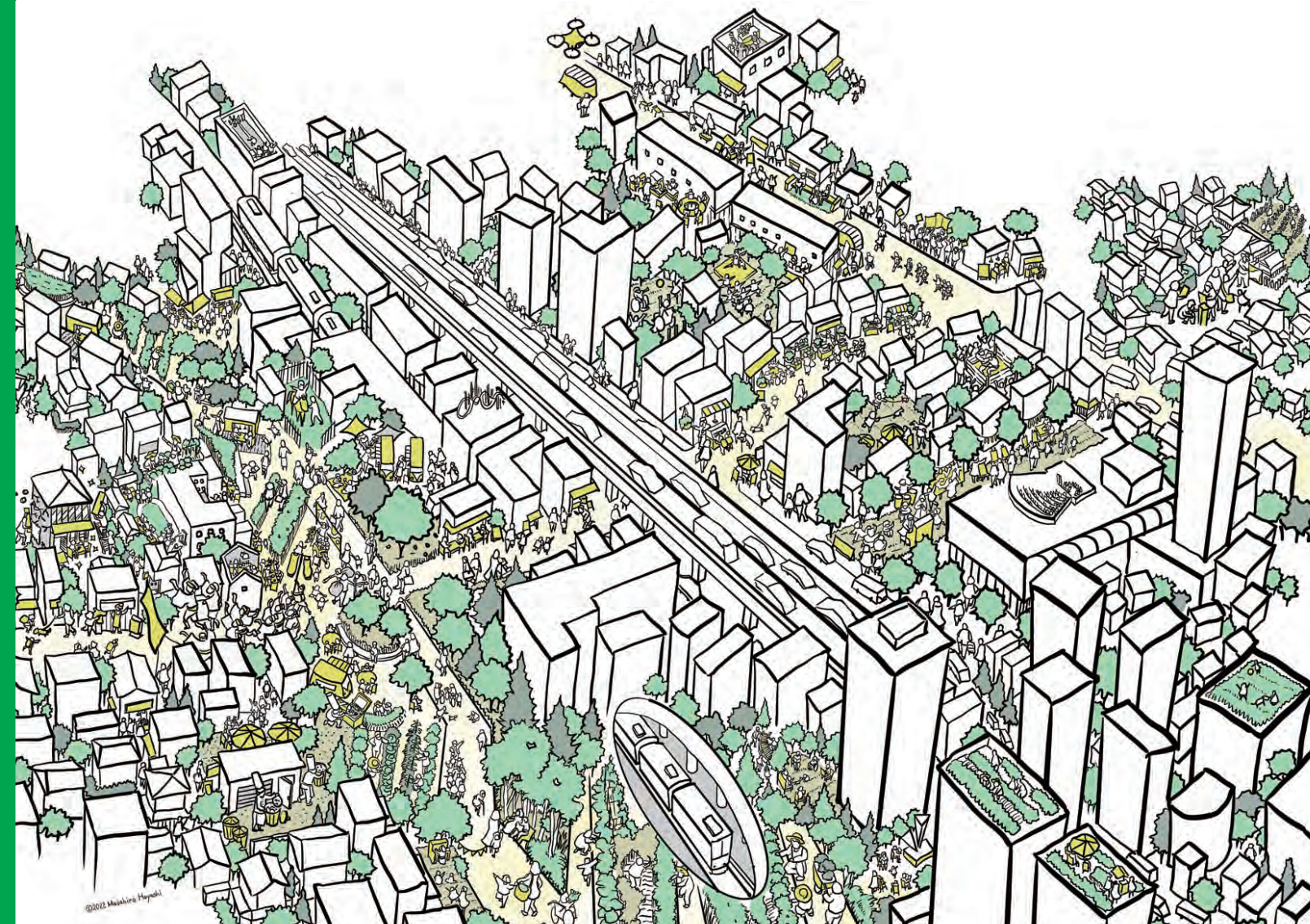


わたしたちのまちの未来のすがた。

ササハタハツ

Area Vision Book

ササハタハツ
Area Vision Book





笹塚・幡ヶ谷・初台駅周辺エリア。3つのエリアがひとつになって、
 まちと暮らしのより良い未来を目指すササハタハツ。
 都心至近に位置していながら、自然を身近に感じられ、
 人と人とのつながりと温かみを感じられるエリアです。
 都市と自然、ビジネスと暮らし、歴史と最新、幅広い世代の人と人。
 それぞれが、互いに響きあい、調和してゆく未来へ。
 多くの市民が参加して、自発的に取り組みながら、
 いきいきと暮らしやすいまちをつくっていきます。

CONTENTS

01.	はじめに Page 3 1. 「ササハタハツエリアビジョン」策定の経緯と目的 3 2. ササハタハツエリアビジョンの対象地域 4 3. ササハタハツエリアビジョンの位置づけ 4
02.	ササハタハツエリアの将来像 Page 5
03.	共通原則、テーマと取り組み Page 7 1. 基本的な考え方(共通原則) 7 2. まちづくりのテーマと取り組み 9 3. ササハタハツまちラボ実施事業 16 4. 令和2年度～3年度ササハタハツまちラボ認定プロジェクト 17
04.	ササハタハツエリアビジョンの実現に向けて Page 20 1. ビジョンの実現に向けた3つの柱 20 2. ビジョンを実施する推進体制 21 3. ビジョン実現までのロードマップ(行程表) 23
05.	ササハタハツエリアの特徴(現状分析) Page 24 【特徴A】コミュニティ・暮らし 24 【特徴B】自然・環境 25 【特徴C】商業・賑わい 27 【特徴D】歴史・文化・創造 27 エリアの特徴(まとめ) 29

01.

はじめに

1. 「ササハタハツ エリアビジョン」策定の経緯と目的

▶ ササハタハツエリアの暮らしの質・まちの魅力の更なる向上が目的

京王線笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅のそれぞれ頭文字を採り、「ササハタハツ」と称している本エリアでは、地域住民をはじめ地域に関わるあらゆる人々にとって魅力的なまちにしていけるために、平成29年度からササハタハツまちづくりとしてワークショップが開催されており、参加者の良好な関係が生まれ、自発的なプロジェクトが実施されています。また、ササハタハツまちづくり3年目となった令和元年度は、「(仮称)ササハタハツまちラボフューチャーセッション」を開催し、多種多様なプロジェクト構想が新たに生まれました。同時に、市民共創プロジェクトを支援していく仕組みを模索してきました。

上記の背景を踏まえ、令和2年度に官民連携により、「ササハタハツまちラボ」(以下、まちラボ)を設立しました。まちラボは、ササハタハツエリアのまちづくり共創プラットフォーム※として、ササハタハツエリアでのさらなる暮らしの質の向上を目的に、関わりたくなる「場所」と「仲間」があるまちを目指しています。

このササハタハツエリアビジョンは、ササハタハツエリアの暮らしの質やまちの魅力の更なる向上のため、ササハタハツエリアに関わる様々な方々の参画を促すとともに、ともに取り組む方向を示したもので10年後の将来像を描いています。

「ササハタハツまちづくり」とは・・・

ササハタハツまちづくりとは、これまで個々にまちがつけられてきた笹塚、幡ヶ谷、初台駅周辺の3つのエリアが、1つのエリアとしてチカラを合わせ、まちや暮らしの未来について考え、実践していこうという考え方です。



※まちづくりの共創プラットフォーム・・・

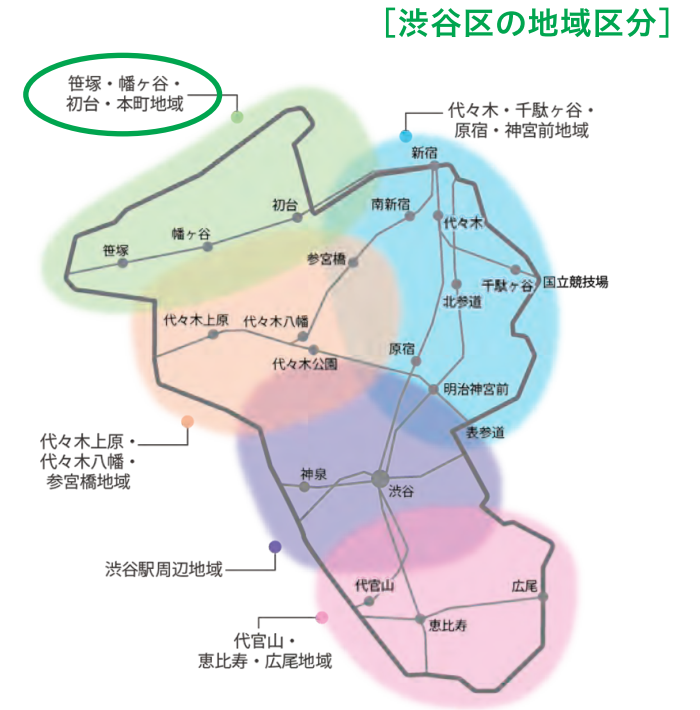
本ビジョンでのまちづくりの共創プラットフォームとは、官民の多様な人材が参画し、まちの将来像を共有し実現するための場

2. ササハタハツ エリアビジョンの対象地域

▶ 渋谷区北部

「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域」が対象

本ビジョンに示すササハタハツエリアは、渋谷区まちづくりマスタープラン(令和元年12月・渋谷区)における地域区分「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域」を対象とします。概ね笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅を中心に徒歩圏内500m~1kmの範囲です。



出典：渋谷区まちづくりマスタープラン

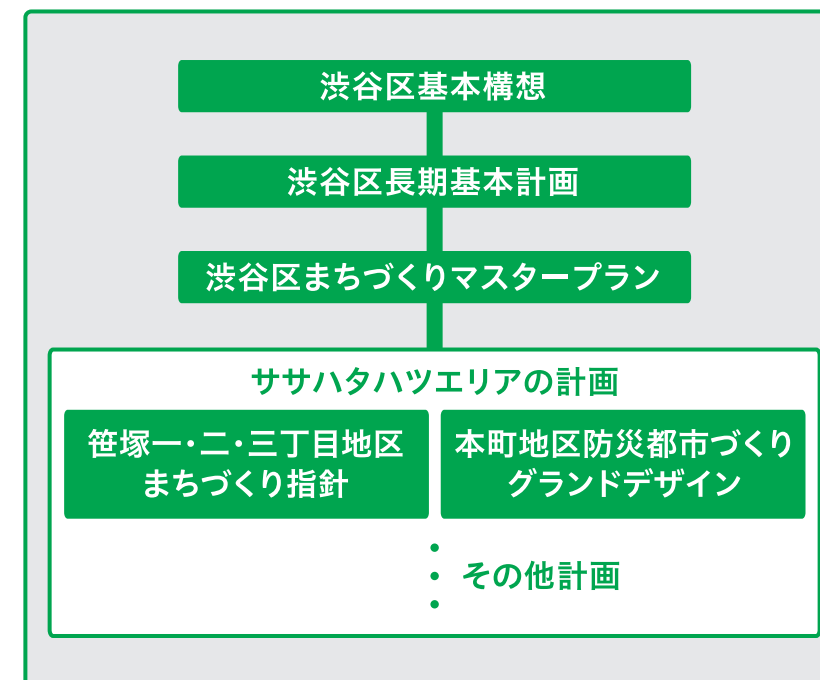
3. ササハタハツエリアビジョンの位置づけ

▶ 渋谷区の行政計画を尊重し、ビジョンを策定

本ビジョンと渋谷区行政計画は、下図に示すような関係性です。

行政計画との関係性

[渋谷区行政計画]



[ササハタハツまちラボ策定]



連携

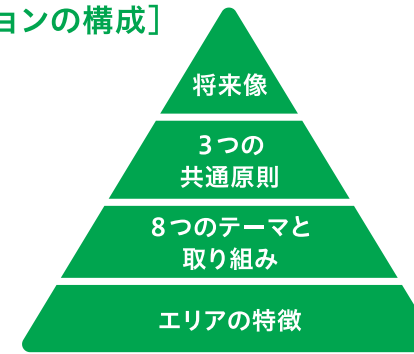
※「連携」とは・・・

- ・行政計画を尊重したうえでビジョンを策定します。
- ・ビジョンの考えを尊重したうえで、今後のササハタハツエリアの行政計画を策定します。
- ・ササハタハツエリアビジョンは必ずしも行政計画との整合性を図るものではありません。

02.

ササハタハツエリアの将来像

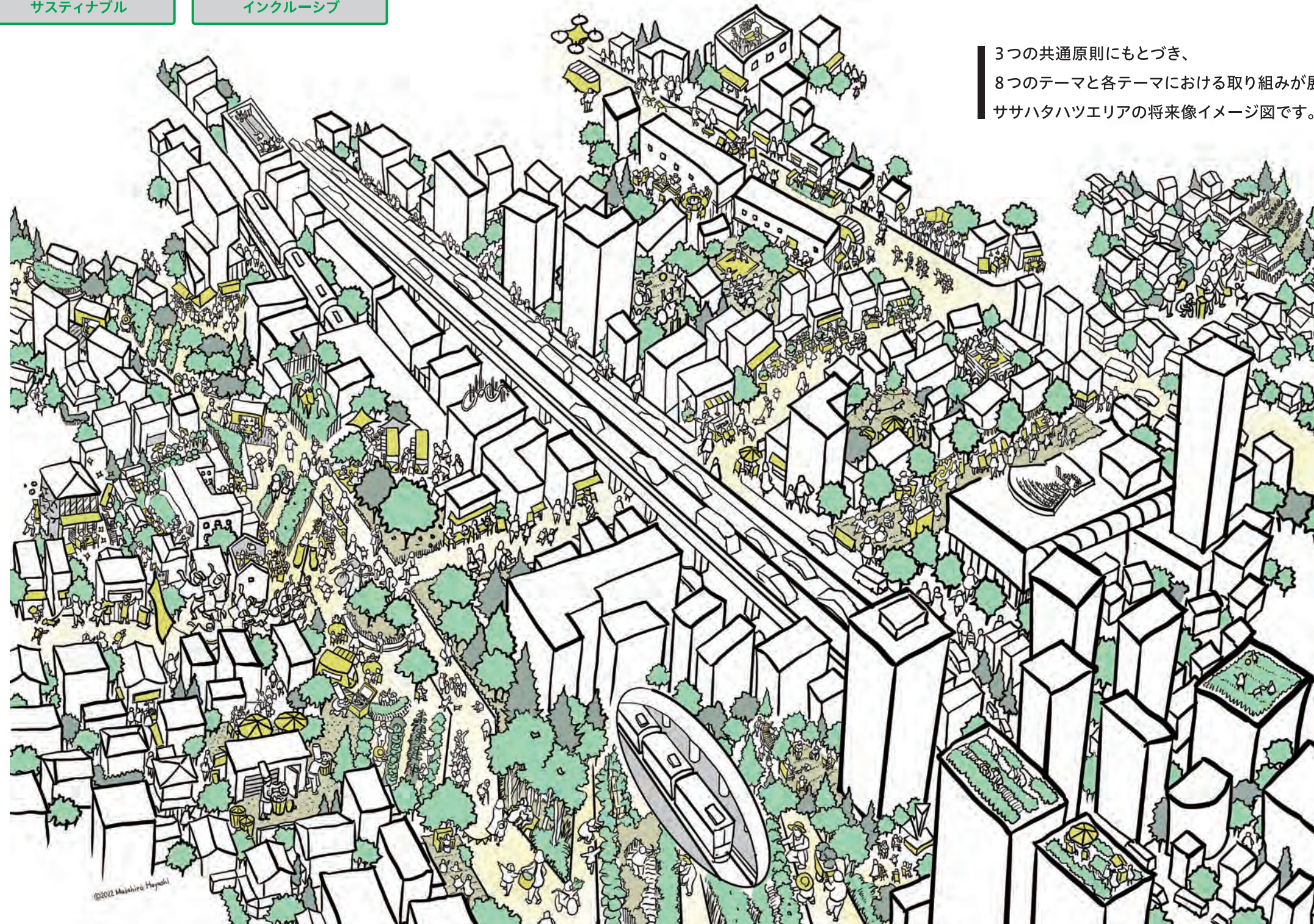
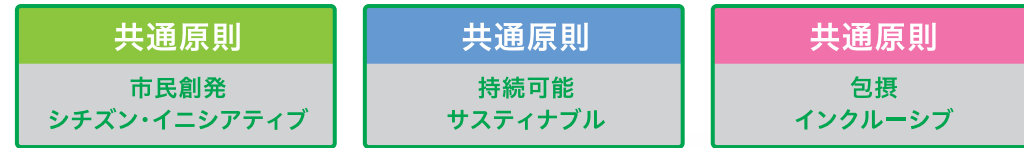
[ビジョンの構成]



ササハタハツエリアは渋谷区の中でも多くの方が住んでおり、多様なコミュニティ活動が行われています。また、玉川上水旧水路緑道の身近な自然環境や、歴史・文化に触れる機会が多い地域です。さらに、昔ながらの商店街等、利便性が高く、賑わいがあるのも特徴です。このような特徴を踏まえ将来像を設定し、実現するための3つの共通原則と8つのテーマ、さらに各テーマにおける取り組みを示しました。

将来像

市民創発による持続可能で多様性を包摂した、共に活躍・成長できるまち



3つの共通原則にもとづき、8つのテーマと各テーマにおける取り組みが展開されている様子が描きこまれた、ササハタハツエリアの将来像イメージ図です。

Theme 1
コミュニティ

Theme 2
健康

Theme 3
パブリックスペース

Theme 4
賑わい

Theme 5
自然環境

Theme 6
文化・芸術・歴史

Theme 7
仕事

Theme 8
治安・防災

03.

共通原則、テーマと取り組み

1. 基本的な考え方(共通原則)

▶3つの共通原則を設定

共通原則は、8つの全てのテーマに対して横断的に関わり、テーマ下の取り組みの進め方やゴールの設定にあたり、共通して考慮したい基本的な考え方(原則)です。



Citizen's Initiative : 市民創発 シチズン・イニシアティブ <市民の自発的な参加や活動を推進し、まちをより良くする>

多様な人と人が集い、まちをより良くする新たな活動が自発的に創り出されているササハタハツエリア。先端的なデジタル技術やデータを積極的に活用して、市民の誰もが発案や参加ができ、市民の視点から発想された取り組みがエリアに実装され、改善が見えるまちをつくります。

Sustainable : 持続可能 サステイナブル <経済・社会・文化・環境を総合的に捉えて、エリアの持続性を生み出す>

都心部にありながら、玉川上水旧水路緑道をはじめ、身近に自然に触れられる機会が多いササハタハツエリア。環境との共生、災害や非日常時への対応を日常時から考慮し、様々な変化に強くしなやかに対応し、社会・文化・経済活動を続けられるまちをつくります。

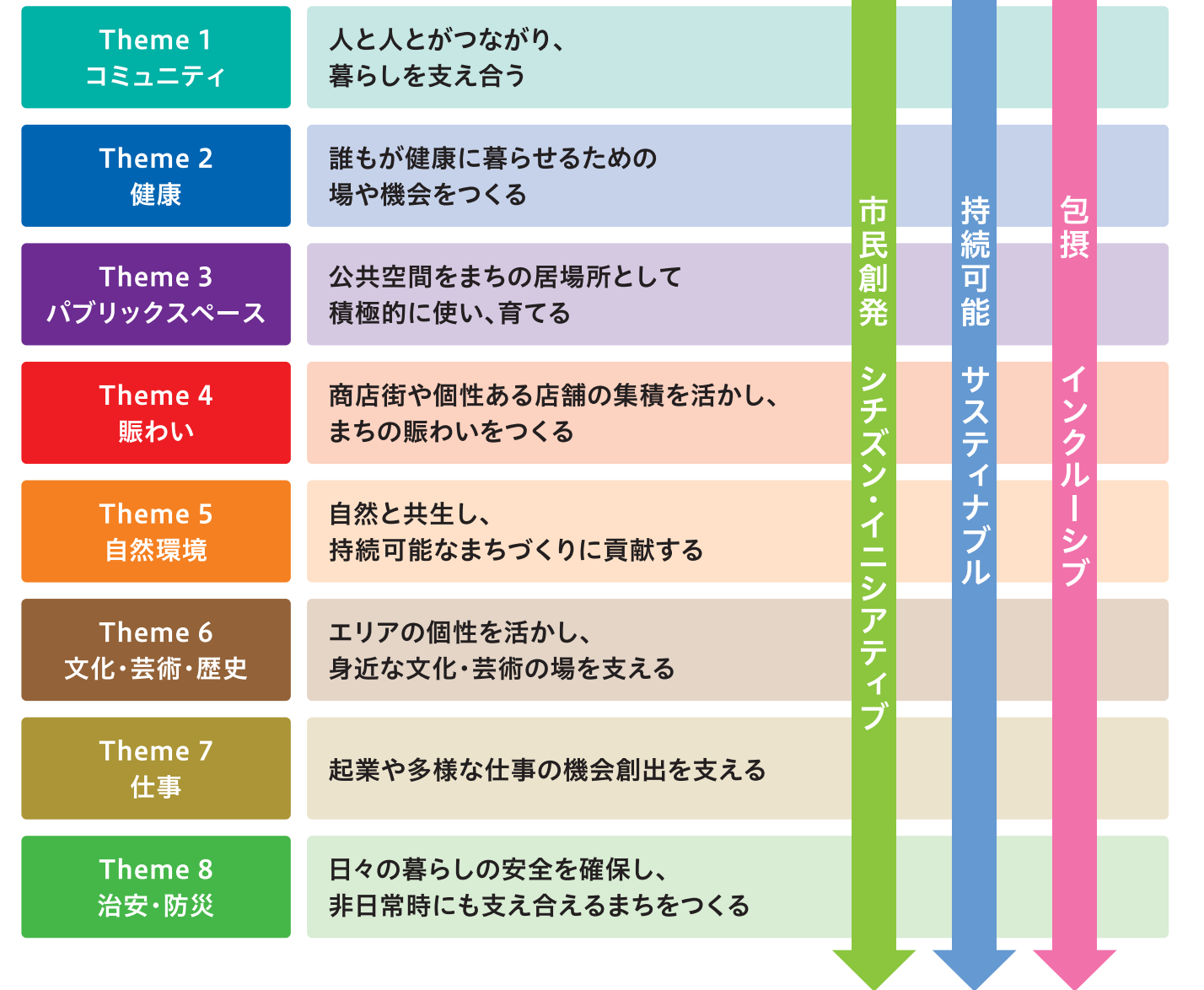
Inclusive : 包摂(ほうせつ) インクルーシブ <多様性を包摂し、共に活躍・成長する>

渋谷区内において比較的多くの居住者が存在し、また居住者の世代やありようも様々なササハタハツエリア。誰もが自分の人生の主語は自分だと思えるように、思い遣り、助け合い、笑いあえる街をつくるため、誰もがアクセスできるいきいきと暮らしやすい環境や仕組み・個々の成長が交差し合いシナジーを生むコミュニティをつくります。

▶まちづくりを進めるうえで、特に注力する8つのテーマ

8つのテーマは、ササハタハツエリアの特徴をふまえて、戦略的なまちづくりを進める上で特に注力していく領域として設定するものです。また、まちラボでは、これらのテーマにもとづいた取り組みを積極的に推進・支援していきます。ササハタハツエリアの暮らしの質やまちの魅力の更なる向上のため、エリアに関わる様々な方々の参画を促すとともに、共に取り組む方向を示すものです。

[8つのテーマ概要]



共通原則
テーマ領域を横断して機能・連携を促す

2. まちづくりのテーマと取り組み

Theme

1 コミュニティ 人と人がつながり、暮らしを支え合う

ササハタハツエリアに暮らす人、働く人、学ぶ人、訪れる人など多様な人同士がつながり、まちに愛着を持てる機会づくりを進めます。また、子育て世帯や高齢者世帯に加えて、あらゆる人たちの暮らしを支え合う仕組み・場をつくります。

地域とともに進める取り組み案

▶ 暮らしの支え合いやまちへの愛着醸成等に関して、人と人がつながるきっかけづくり

なんでも作れるラボ(3Dプリンターを使ってものづくりができる場)、挨拶・顔見知りほどの緩いつながりづくり、フードシェアリング※等の食を通じた交流

▶ 子育て、高齢者福祉、社会的少数者などを支え合う場や体制の充実

子育て環境の充実

▶ 人材の育成や発掘の充実

地域リーダー育成プロジェクト、SNSグループによる若い人の取り込み

▶ 誰でも立ち寄れる居心地の良い場、独りにしない居場所などの場や体制の創出

土日開放自習室、独りにさせない居場所、子どもも高齢者も誰でもいられる場所、中高生が立ち寄りやすい趣味などを行える居場所づくり

▶ コミュニティ情報の発信や共有

SNSグループによる情報共有、既存のまちづくりの情報の集約



つながる菜園プロジェクト



Mamapura Kids & Baby



※フードシェアリング…

食品ロスを削減する取り組みの一つで、無駄になりそうな商品を消費者に上手く届けることで食品ロスの発生を減らす仕組みのこと。

Theme

2 健康 誰もが健康に暮らせるための場や機会をつくる

日頃から誰でも気軽に参加できる運動の場づくりや、有害なストレスが蔓延しない心と体の健康につながる機会づくりを通して、誰もが健康的な生活スタイルを実現できるまちをつくります。

地域とともに進める取り組み案

▶ 誰でも気軽に参加できる運動の場の充実

▶ 屋外空間でのスポーツ・体操プログラム等の実施

屋外空間でのスポーツやヨガプログラム等の実施。

▶ 心と体の健康を支えるコミュニティの構築

作物や植物を育てる活動を通じたコミュニティの構築(FARM※など)

▶ ストレスフリーな場の創出

土に触れられる場所、一緒に食べられる場所、閉塞感なく居てもいい場所づくり(FARM※など)



インクルーシブ運動場



※玉川上水旧水路緑道再整備コンセプト「FARM(ファーム)」…

緑道を起点に「農」や「食」をテーマに地域の暮らしを豊かにすること、また緑道から新たな「創造活動」を育てること、という2つの意味を持つ。「FARM」は新しく整備された空間を指すこともある。

3 パブリックスペース 公共空間をまちの居場所として積極的に使い、育てる

公園や道路空間、公共施設、公開空地などの公共空間は、まちの居場所となる貴重な空間です。さらに、それらに面した建物や看板などもまちの顔の一部であり、まちを印象づけるものとなります。景観や場所のあり方を考え、そこに集う人々の思いや活動を活かして、ひとりひとりの居場所となり、愛着の持てる都市空間づくりを推進します。

地域とともに進める取り組み案

- ▶ 玉川上水旧水路緑道の積極的な利用、市民活動との連携
- ▶ 公園、広場等パブリックスペースのインクルーシブな利活用促進
 - 子どもの外遊び場の充実、心と体の健康を支えるコミュニティの構築、車いす等の移動に制約がある方へのアクセシブルな取り組み、ペットの居場所づくり
- ▶ 公園や道路空間を利用したイベントの開催
 - みちあそびプロジェクト(限定芝生広場)
- ▶ 地域住民や地域に関わる人々の共創による維持管理・環境美化の仕組みの構築
 - 景観の向上(統一感、環境美化)、公園でのゴミ拾い、公衆トイレの清掃
- ▶ 民有地や企業連携によるスポットスペースづくりの促進
 - ベンチプロジェクト、デイサービスの多世代活用、高齢者目線の街の中で休憩できるスペースづくり
- ▶ 安全で便利に移動できるまちの創出
 - 自転車誘導、移動支援モビリティレンタル
- ▶ 地域コミュニティや防災の拠点としての学校施設づくり
 - 学校施設長寿命化計画



Mamapura Kids & Baby



4 賑わい 商店街や個性ある店舗の集積を活かし、まちの賑わいをつくる

昔ながらの商店街や魅力的な新しい個店の集積は、ササハタハツエリアならではの個性です。イベントや外へのにじみだしの促進、空き店舗・古いビルの利用促進、個店間の更なる連携など、エリアの個性を活かした取り組みにより、まちの賑わいをつくります。

地域とともに進める取り組み案

- ▶ エリア内店舗の応援・活用促進
 - エリア内店舗の応援
- ▶ 店舗から外へのにじみだしの促進
 - イベントでの出店、マルシェ、飲食店や販売の屋外スペース利用、ミチ活用プロジェクト(外の賑わい)、収穫祭(FARM※)
- ▶ 空き家・空き店舗の利用促進・チャレンジ支援
 - 空き家・空き店舗の暫定利用、チャレンジショップを立ち上げやすい商店街
- ▶ 個店や商店街などエリア内連携の機会創出
 - 学生や若いアーティストの展示や発表の機会・場所の提供



Tea Party

※玉川上水旧水路緑道再整備コンセプト「FARM(ファーム)」・・・

緑道を起点に「農」や「食」をテーマに地域の暮らしを豊かにすること、また緑道から新たな「創造活動」を育てること、という2つの意味を持つ。「FARM」は新しく整備された空間を指すこともある。

5 自然環境 自然と共生し、持続可能なまちづくりに貢献する

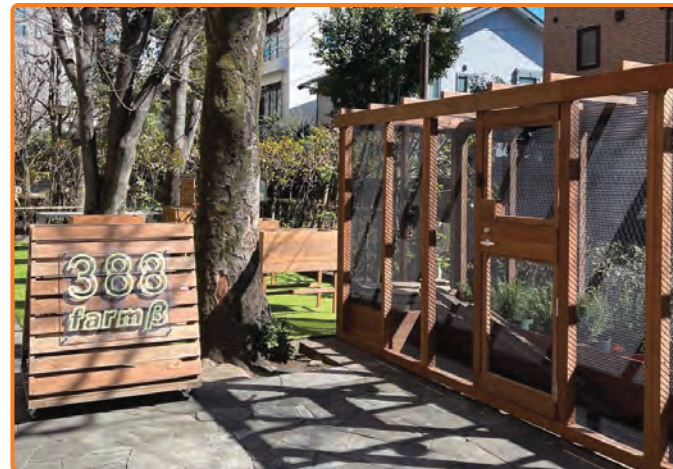
ササハタハツエリアには、玉川上水旧水路緑道をはじめ、身近に自然を感じられる場所が数多くあります。緑地や水辺の創出と保全を、公園・道路・公開空地・屋上等で今よりさらに進め、ヒートアイランド現象の緩和やCO2削減など気候変動対策にも寄与し、自然と共生した都市環境をつくります。

地域とともに進める取り組み案

- ▶ 玉川上水旧水路緑道等を利用したFARMの構築・FARMを軸としたまちづくりの展開
FARMを軸とした居場所・場づくり
- ▶ 循環型の緑地・ガーデンの整備・運営
SDGsなガーデンづくり(生きることを子どもたちに教えらるるガーデン)
- ▶ 自然と共生した街並み・環境整備等
民有地への緑化、屋上緑化、雨水浸透型緑地、SDGsなガーデンづくり
- ▶ まちの緑に気候変動対策の価値の付与、効果の見える化
FARMなどオープンスペースの緑を活用した気候変動対策、SDGsなガーデンづくり、サステナブルエネルギーの利用



花コミュニティプロジェクト「ささはたカフェGarden」



仮設FARM(初台緑道)

6 文化・芸術・歴史 エリアの個性を活かし、身近な文化・芸術の場を支える

芸術の存在は、まちに感性や知性、活気を与えるものであり、また地域の文化や歴史はまちのアイデンティティの核となるものです。市民の体験・学習・発表の機会の創出やクリエイターの活躍を支える場づくりを行い、東京オペラシティが立地するエリアの個性ある環境も活かしながら、日常的にアートや文化に触れることができるまちをつくります。

地域とともに進める取り組み案

- ▶ 日常的に音楽やアートに触れたり、創作することのできる場所・機会の創出
エリア内回遊型音楽(&アート)イベント、多世代アートな雰囲気を作る(フェスタ・ワークショップ)、今昔地図、地域のかかるた制作、発表・展示会、まちの図書室、IoTや3Dモデリングなどを活用したワークショップの開催
- ▶ 歴史や文化の魅力を伝え、次世代に継承する活動の展開
ササハタハツ歴史と自然探訪ツアー、歴史や文化などの魅力を伝える公開セミナー
- ▶ クリエイターの活躍を支える場づくり
アーティストインレジデンス
- ▶ 文化芸術、音楽、商店街など、ササハタハツエリアの多様な魅力の情報発信
既存のまちづくりの情報の集約



北沢プロジェクト



まち遺産探検隊

7 仕事 起業や多様な仕事の機会創出を支える

スタートアップ企業や個人事業主、ソーシャルアントレプレナー（社会起業家）※等が取り組む新たなチャレンジを支える仕組みをつくります。企業との協業、地域側との連携支援により、最先端の技術・サービスを活用したまちの課題解決や魅力向上に取り組めます。また、趣味や特技を活かしたい人や働きづらさを抱えた人などへの多様な仕事や活躍の機会を創出し、誰もが機会をもてるまちを目指します。

地域とともに進める取り組み案

▶ 多様な仕事の機会創出

地域お手伝い、地域ポイントで機会やチャンスを得られる取り組み

▶ スタートアップや起業家の活動拠点の創出、支援

ソーシャルアントレプレナー（社会起業家）の育成、空き店舗を使った起業・スタートアップ向けコミュニティ、ユニットハウス設置・貸出によるチャレンジ・トライアルの場づくり、空き家や都営住宅の活用

▶ 障がい者通所施設、企業、既存の就労支援施設（シルバー人材センター等）との連携促進、ソーシャルファーム支援※

▶ 趣味や特技を活かした場・つながりの確保

空き店舗でアクティビティやワークショップ、習い事・お菓子販売などで居場所・つながりづくり

▶ リモートワーク環境・コワーキングスペースの充実

※「ソーシャルアントレプレナー」…

深刻かつ差し迫った社会的な課題に対してビジネスやマネジメントのスキルを応用し、問題の解決とともに収益の確保にも取り組む企業家。

社会企業家や社会起業家ともよばれ、社会企業そのものをさすこともある。

出典：小学館日本大百科全書（ニッポニカ）

※「ソーシャルファーム」…

自律的な経済活動を行いながら、就労に困難を抱える方が、必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業のこと。

出典：東京都「都民の就労の支援に係る施策の推進とソーシャルファームの創設の促進に関する条例」

8 治安・防災 日々の暮らしの安全を確保し、非日常時にも支え合えるまちをつくる

日々を安全に暮らすためには、交通事故や犯罪などリスクの高い場所の改善のほか、一人一人のマナー意識の向上も必要です。また、災害時や感染症流行時にも弱者を見捨てず、生活の安全を保てるよう、備えやコミュニティのつながりを持っていることが大切です。地域団体や、企業、行政機関が連携して、備えを充実させ、安全を確保できる環境づくりを進めます。

地域とともに進める取り組み案

▶ まちの点検と改善、情報の共有

危険マップ、オープンスペース・避難所確認、防災情報の共有

▶ 自転車や喫煙等のマナー対策

治安の向上（タバコマナー等）

▶ 防犯などまちの安全を支え、人と人がつながる活動サポート

夜回りランニング、挨拶、治安の向上（夜の暗さ等）、防災や防犯に関する啓蒙

▶ いざという時に対応し、支え合えるコミュニティの構築・参加支援

防災組織、防災訓練、コロナ禍における外出自粛者への買い物ボランティア、防災コミュニティへの参加のしやすさ

ササハタハツまちラボ実施事業

388 FARM β

（ササハタハツファームベータ）



玉川上水旧水路緑道は、渋谷区の事業として平成29年度より再整備計画が進められており、再整備コンセプトである『FARM』を軸に、地域の皆で食と暮らしを楽しみ、こどもから大人まで、年齢も障がいの有無も関係なく、誰もが参加できる場所に生まれ変わろうとしています。再整備コンセプトである『FARM』には、「農」と「育てる」の二つの意味が込められています。

まちラボは、将来再整備される玉川上水旧水路緑道上で再整備コンセプトを体現する実験イベントを“388 FARM β”（ササハタハツファームベータ）と称して実施しています。”β“は未完成で発展途中段階であることを示していて、この取り組みは、未来の暮らしの実験であることを表しています。

388 FARM βでは、農・アート・教育・マルシェなどをきっかけに地域のつながりや交流を生み出し、今までにない新たなコミュニティを育みます。こどもたちの学びの場として、個人のアイデアを形に出来る場として、様々なチャレンジを応援する場として、ひとりひとりの暮らしが彩られる未来のササハタハツの暮らしの実現に向けて、これから様々な実験を行っていきます。



▶ 過去の取り組み

第1弾が令和3年11月7日（日）に行われ、農・食・コミュニティに関する社会課題・地域課題を解決する388マルシェ及びまちラボで認定・登録している市民共創プロジェクトの体験・発表が行われました。

▶ 今後の取り組み

今後も緑道上で「FARM」のコンセプトを深めていく取り組みを継続しながら、過去の開催をきっかけに醸成された地域コミュニティやチャレンジする人のつながりのさらなる発展を目指していきます。

【該当するまちづくりのテーマ】

Theme 1
コミュニティ

Theme 2
健康

Theme 3
パブリックスペース

Theme 4
賑わい

Theme 5
自然環境

Theme 6
文化・芸術・歴史

令和2年度⇒3年度 ササハタハツまちラボ 認定プロジェクト

あなたも
参加して
みませんか

みんなの
自発的な取り組みを
ご紹介

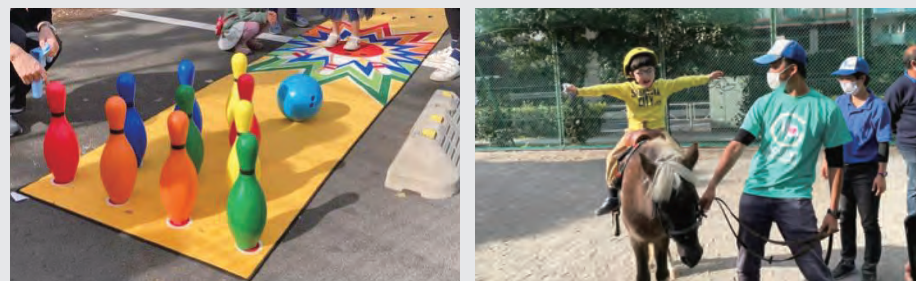
活動の輪が
広がっています

インクルーシブ 運動場



「インクルーシブ運動場」は、年齢・性別・身体機能に関係なく誰もが気軽に身体を動かせる運動や活動を、まちのオープンスペースで開催するプロジェクトです。ご高齢の方や、お手伝いが必要な方、障がいをお持ちの方に対する理解が深まり、まちの環境やコミュニティ自体が、オープンスペースを通してインクルーシブになることを目指しています。

活動実績として、『リハビリや遊具の体験会』、『388 FARM β』で、緑道縦断ウォークラリー(車椅子・乗馬・盲体験)、保育園と老人施設で『出張動物ふれあい体験』があります。今後は、新しいリハビリ機器を使ったわくわくする楽しい運動やダイナミックな運動の企画などを考えています。



[該当するまちづくりのテーマ]

Theme 1
コミュニティ

Theme 2
健康

Theme 3
パブリックスペース

Tea Party (ティーパーティ)



「Tea Party」は、お茶会(参加者同士による自由なコミュニケーション)の場を作り、まちの文化と経済を活性化させることを目的に、毎月第三火曜日の9時から10時まで幡ヶ谷の緑道で活動しています。まちの課題を持ち込まれる方と行政や企業を繋げるお手伝いをしたり、渋谷区観光協会と共にササハタハツの魅力伝える観光案内所としても機能しています。

今後は、緑道に拠点を設けて文化と経済の活性化に貢献できる場づくりなどを行いたいと考えています。2022年夏にTea Party主催のお茶フェスを開催予定です。

[該当するまちづくりのテーマ]

Theme 1
コミュニティ

Theme 3
パブリックスペース

Theme 4
賑わい

Theme 6
文化・芸術・歴史

Theme 7
仕事

ササハタハツ まち遺産探検隊



その街らしさが感じられるものを「まち遺産」と定義し、子どもたち中心の多世代でまちを歩いてエリア内のまち遺産を探す活動を行っています。これまで、初台、笹塚、本町、幡ヶ谷、代々木四丁目でのまち遺産を探す『まち歩き活動』(ZoomやGoogleアースを活用したオンライン実施含む)や、発見したまち遺産を紹介する『パネル展示』、まちの方が知るまち遺産を紙の地図に記入いただく『マップ作成』を行ってきました。

今後は、各エリア内のまち遺産をさらに集めていき形に遺(のこ)す、ご高齢の方々から「まちの思い出」をヒアリングする企画などを考えています。

[該当するまちづくりのテーマ]

Theme 1
コミュニティ

Theme 6
文化・芸術・歴史

Mamapura Kids&Baby (ママぷら)



出産を機に変化するママの心身の健康のために、「運動」「コミュニティ」「ふれあい」を通してママが自分自身を大切に、さらに家族が楽しく暮らせる地域社会を目指しています。また、子育て世代や地域との横の繋がり、親子の絆を深めることを目的に、渋谷区在住の子育て真っ最中のママたちで活動・運営をしています。これまで、子育て広場、親子参加型イベント、こどもの居場所作り、産後ママの身体ケアクラス、地域情報誌の発行、オンライン講演会などを開催してきました。

今後も継続的に親子が安心して通える居場所、幼児から小学生までの子どもたちがイキイキと楽しめる居場所や何かに挑戦できるような環境作りをしていくことを考えています。

[該当するまちづくりのテーマ]

Theme 1
コミュニティ

Theme 2
健康

Theme 3
パブリックスペース

つながる菜園プロジェクト



ササハタハツエリアの公立小学校に、「全ての子供たちに平等な居場所」としての学習菜園をつくり、運営すると共にまちと繋げていくプロジェクトです。つながる菜園で実現したいことは、「学校菜園を一つの教室として位置付け、土作りから収穫、調理まで、生命のつながりを体験的に学ぶ」、「全ての子供たちが安心して居られる場所、学べる場所を『学校』につくり、学校、地域、企業、行政が一体となった『学びと遊び』のコミュニティをデザインする」、「都市生活の中でSeed to Table、Farm to Tableを実体験する」です。これまで、区立幡代小学校で学校菜園を導入し、3年生国語教材として、大豆の種まきから収穫まで行い、給食で全校児童へ提供をしてもらった他、菜園オープンデー、チューリップでつながろう企画などを行ってきました。

今後は学校の収穫野菜で調理実習をしたり、地域の飲食店に収穫物を購入してもらい、種などの購入資金に役立てることなどを考えています。

【該当するまちづくりのテーマ】

Theme 1 コミュニティ Theme 3 パブリックスペース Theme 5 自然環境

北渋プロジェクト



2019年度に道路活用を目的とした市民の議論により誕生した団体です。オペラシティ・新国立劇場の魅力や発信を活かし、音楽や芸術を中心に、自己表現を行えるまち、ひいてはアーティストがやってくる・育つまちを目指しています。人を起点として文化と循環が地域に根付き、まちの魅力になると考えています。そのため、自己表現したい人と地域の方々をつなぎ、地域住民が関わり続けることのできる持続的な取り組みを行っています。

2021年は、『北渋フェス』の企画と実施(当日の荒天にて中止)、『338 FARM β』への参加の他、企業とタイアップした発信機会の創出活動を複数回行いました。

【該当するまちづくりのテーマ】

Theme 1 コミュニティ Theme 3 パブリックスペース Theme 6 文化・芸術・歴史

ササハタハツ新聞



2019年度に創刊された、ササハタハツ地域密着WEBメディアです。ササハタハツエリアに関わるローカルイベントの取材・広報支援や、『渋谷のラジオ』、『水道道路勉強会』などの対話の場づくり、ローカルスターの発信の場づくりを行ってきました。活動を通じ、様々な出会いや、つながりづくりを行い、ササハタハツの魅力創造・課題解決に貢献していきたいと考えています。

今後は、さらにコミュニティ支援や認知拡大、編集体制の強化を図っていく予定です。

【該当するまちづくりのテーマ】

Theme 1 コミュニティ Theme 6 文化・芸術・歴史

04.

ササハタハツエリアビジョンの実現に向けて

1. ビジョンの実現に向けた3つの柱

▶「活動の場」と「つながり」の創出、「活動のサポート・エリアマネジメント」が必要

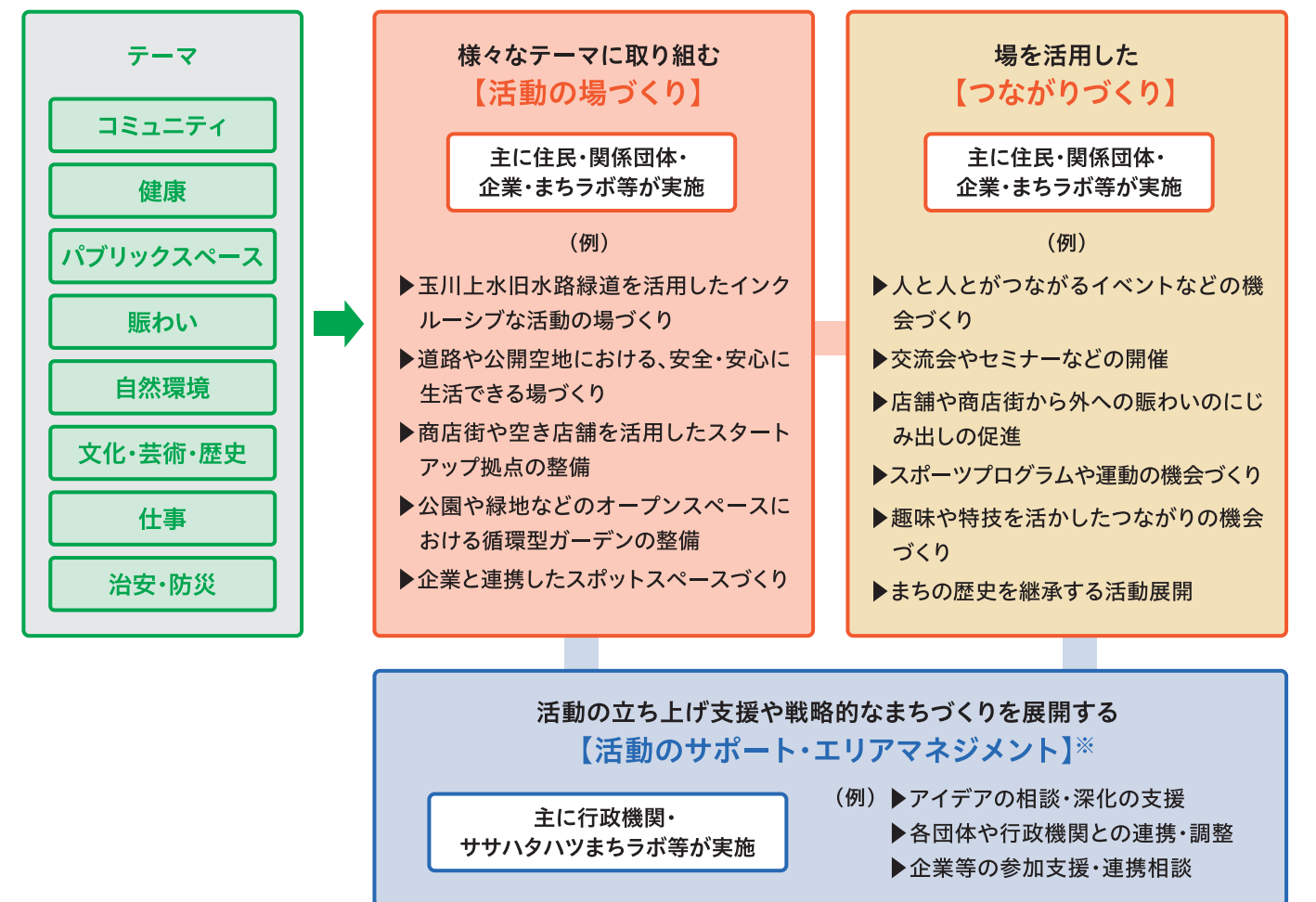
3章の8つのテーマにもとづく取り組みは、テーマを横断して展開されるものもあれば、単独で取り組まれるものもあります。いずれの場合でも、住民をはじめ様々な人が活動する「場」をつくることと、それらの活動に出会い、新たな展開が生まれる「つながり」をつくることが重要です。

「活動の場づくり」は、玉川上水旧水路緑道や道路・公開空地などのパブリックスペースのほか、商店街や公営住宅などの活用を通して各テーマの取り組みが行われる「場」を作ります。

「つながりづくり」は、活動の場と連携して、つながりの機会づくりを展開していきます。

「活動のサポート・エリアマネジメント※」は、まちラボをはじめ行政機関など関係機関が、それぞれの活動を推進するためのアイデア相談や体制構築についてサポートし、エリア全体での活動の充実を図ります。

ビジョンの実現に向けた3つの柱



※「エリアマネジメント」...

本ビジョンでのエリアマネジメントは、活動(プロジェクト)立ち上げ支援、各活動の担い手間や行政機関との連携調整、企業等の連携相談などによってエリア全体で戦略的なまちづくりの展開を図ることを指します。

2. ビジョンを実施する推進体制

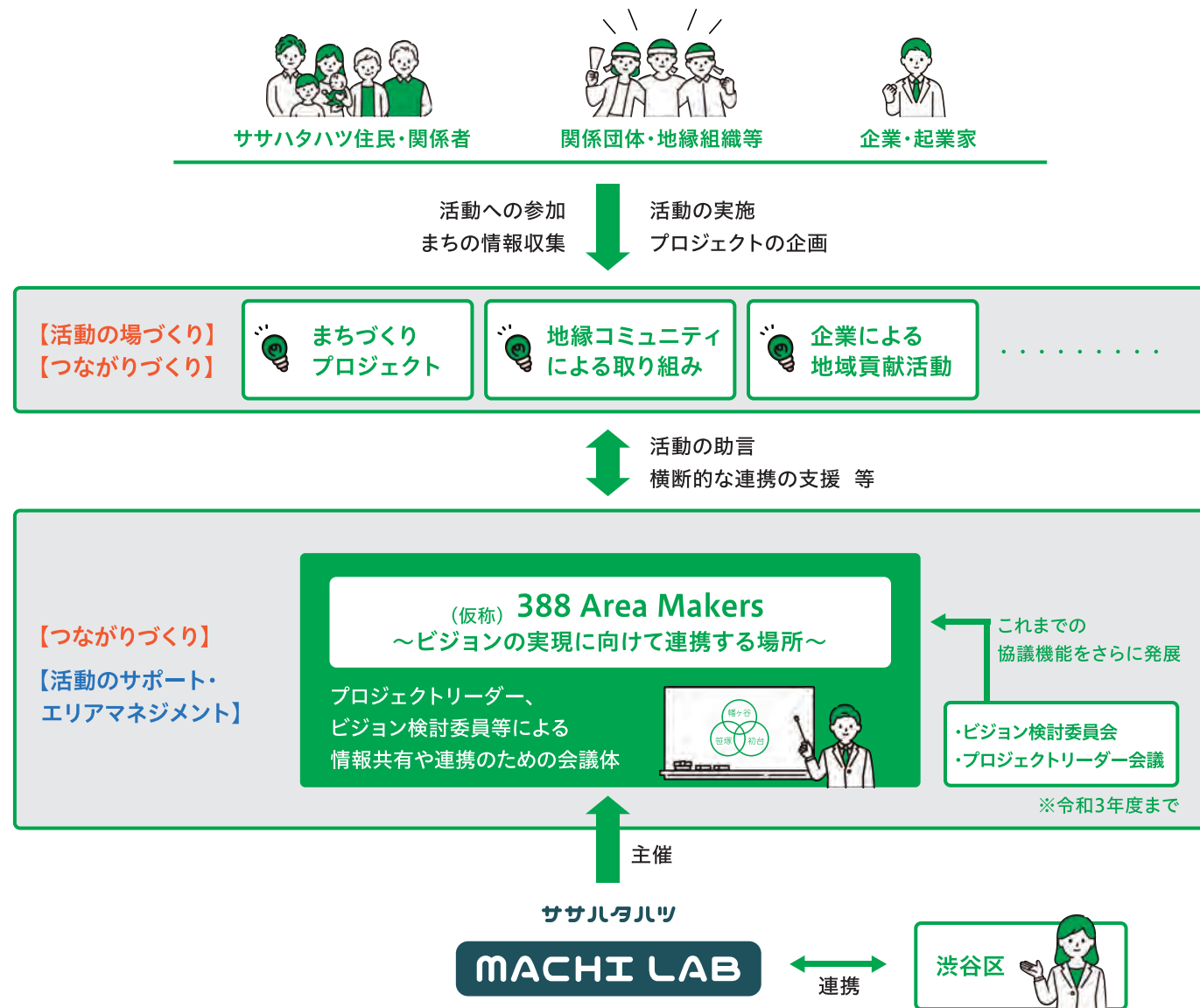
▶様々な活動の連携体「(仮称)388 Area Makers」を設置します

本ビジョンの実現には、ササハタハツエリアの住人、エリアが好きなファン、地域を支える地縁組織や関係団体、エリアで事業を実施する企業等、様々な人の関わりが欠かせません。また、展開される取り組み同士の課題を共有し、横断的に連携することが重要です。

そのため、本ビジョンの実現に向けて、まちラボを中心にまちづくりのプロジェクトのリーダーや本ビジョンの検討委員等による連携体「(仮称)388 Area Makers (ササハタハツ・エリアメーカーズ)」を設置します。「(仮称)388 Area Makers」では、今後も継続的にまちの将来像の実現に向けて情報共有や連携を図っていきます。

また、本ビジョンを定期的に見直し、必要なプロジェクトの立ち上げや、ビジョン自体の検証を継続的に実施する場も設けます。

推進体制のイメージ



※推進体制は、活動の進展等、状況に応じて見直しを行います。

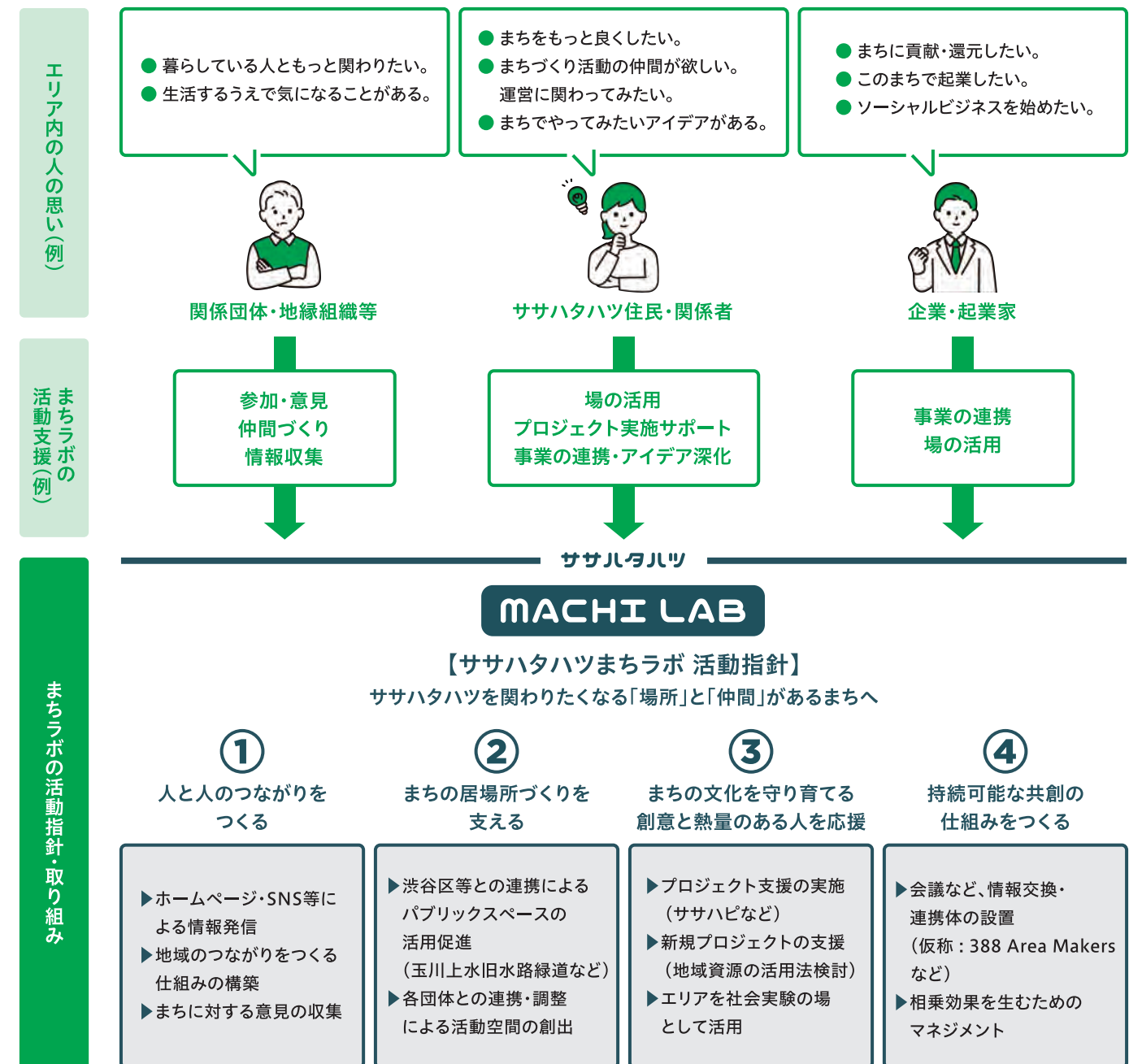
▶ササハタハツまちラボが、エリアへの関わりを生み出します

まちラボは、下記に示す4つの活動指針を掲げて活動しており、まちづくりのハブとなり、エリア内の住民や様々な団体・企業をつなぐ役割を担います。

また、本ビジョンに基づき、エリアマネジメントによってエリア全体で戦略的なまちづくりの展開を目指します。

特に、「活動の場づくり」「つながりづくり」においては、まちづくりに関する情報発信・意見収集や社会実験の実施、活動のサポートなどの支援を行います。

ササハタハツまちラボの役割と「活動の場づくり」「つながりづくり」の支援例



3. ビジョン実現までのロードマップ(行程表)

▶パブリックスペースの活用を起点に、活動を展開します

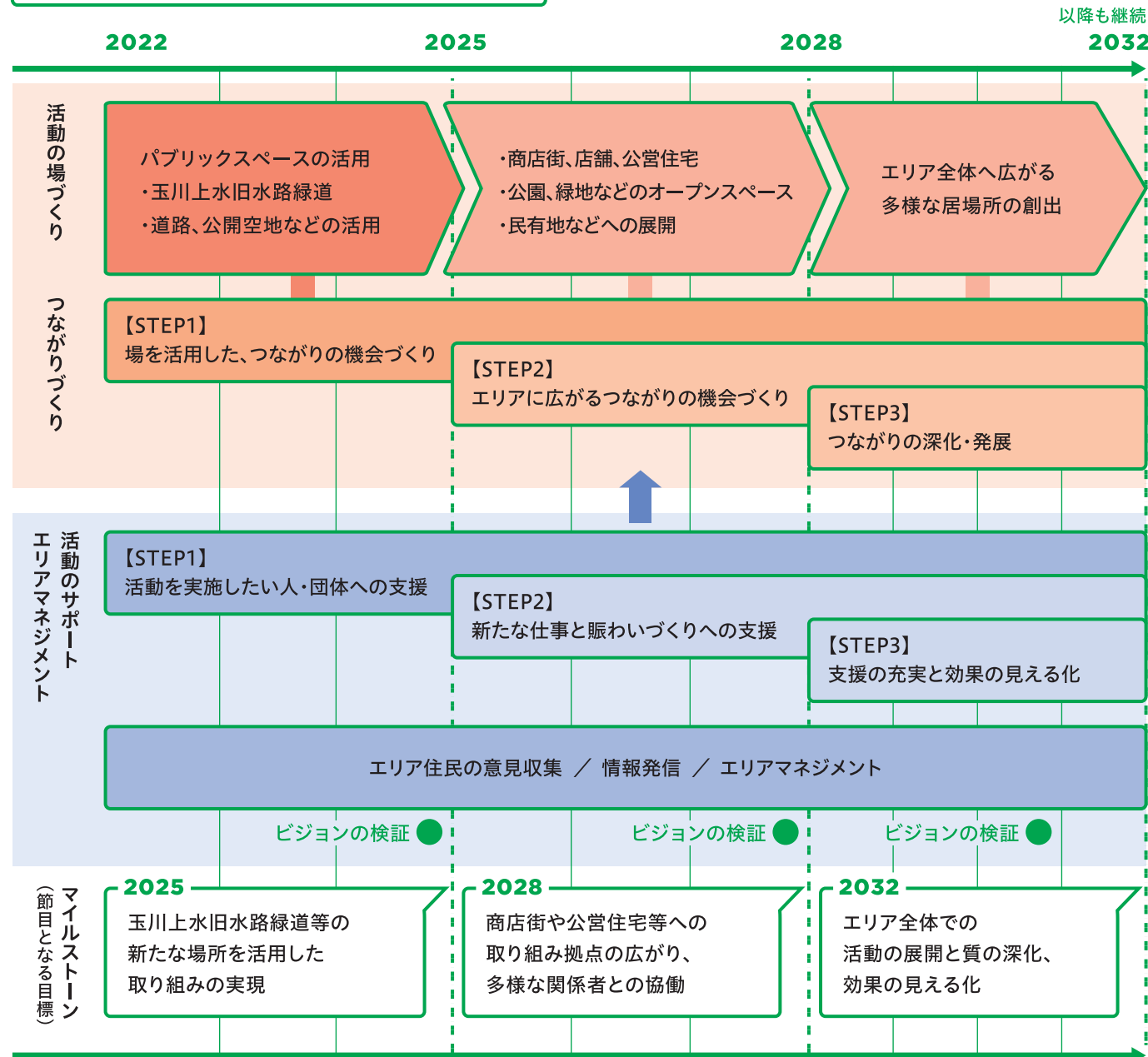
ビジョンの実現に向けたロードマップは、「活動の場づくり」と、その場を活用した「つながりづくり」を横軸として、8つのテーマを横断した形で活動を展開します。それぞれの横軸は、3年ごとを目安にマイルストーン(節目となる目標)を置き、このビジョンで描いた10年後の将来像の実現を図ります。

第1段階(2022~2024)では、緑道や道路・公開空地などの“パブリックスペースの活用”を起点として、場づくり、その場を活用したつながりの機会づくりを行います。また、個々の活動を実施したい人や団体の支援を行います。

第2段階(2025~2027)では、第1段階で創られた活動の場をさらに商店街や公営住宅、公園・緑地、民有地に広げ、エリアに広がるつながりの機会づくりを行っていきます。また、活動のサポートとして新たな仕事や賑わいづくりへの支援を加えます。

第3段階(2028~2031)では、活動の場がエリアのどこでも起こりうる状態に発展させ、またつながりづくりと活動のサポート・エリアマネジメントにおいては、質の深化や充実、効果の見える化を目指します。

ビジョン実現までのロードマップ(行程表)



05.

ササハタハツエリアの特徴(現状分析)

▶現状分析から見えた4つの特徴

ササハタハツエリアビジョンの策定にあたり、各種統計資料やアンケート調査をもとに、エリアの現状を分析し、強み、弱みについて整理しました。その特徴として以下のA~Dが挙げられます。

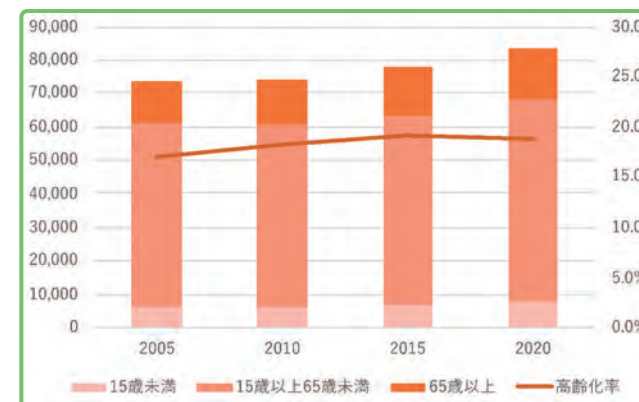
- 特徴 A** **コミュニティ・暮らし**
 多様な世代を受け入れる、暮らしが中心にあるまち
- 特徴 B** **自然・環境**
 玉川上水旧水路緑道を中心に、身近に自然を感じることができるまち
- 特徴 C** **商業・賑わい**
 商店街を中心に、様々な魅力ある個店が集積するまち
- 特徴 D** **歴史・文化・創造**
 まちの歴史を土壌に、新たな文化や魅力が生まれるまち

特徴 A コミュニティ・暮らし 多様な世代を受け入れる、暮らしが中心にあるまち

▶渋谷区内の大半の人口を占める

ササハタハツエリアは人口83,663人で、渋谷区全体(229,671人)の人口の36%(2020年1月時点)を占めています。また、2015年から2020年にかけて、エリアの人口は微増しています。地域別の大きな違いは見られませんが、大山町は最も人口が増加しています。

[ササハタハツエリアの人口増減・高齢化率]



出典:渋谷区住民基本台帳(2005~2020)
 ※住民台帳法の一部改正により2005,2010は外国人を含まない。

[ササハタハツエリアの町別の人口増減率(2015年:2020年の比較)]



出典:渋谷区住民基本台帳(2015,2020)

▶他地域に比べ高齢化率が低く、多様な世代が居住

渋谷区の他地域に比べ、高齢化率が低い状況であり、単身世帯から家族まで幅広い世代・世帯が暮らしていることが分かります。エリア別に見ると、甲州街道を境に南部の高齢化率や単身世帯率が低く、北部は若干高い状況が見られます。その一方で、このエリアは僅かずつではありますが、15歳未満の人口も増えています。残っていてほしいまちのイメージのアンケート(第1回アンケート:2021年1月~2月実施)結果では、「子どもにやさしい、子育てしやすい」という項目が、今のイメージに比べて10年後に実現してほしいと答えた割合が高く、子育て環境の向上が求められていることが分かります。

また、就労支援施設等も多い地域であり、その通所者も利用する地域です。

2017年度から2019年度に開催された「まちラボフューチャーセッション」の場において、「新住民と旧住民の接点がない」「つながりを求める人が多い」といった意見も出ています。2020年度のササハタハツまちラボ認定・登録プロジェクト※においても、コミュニティ不足の解決を目指したプロジェクトが実施されています。

※ササハタハツまちラボ認定・登録プロジェクト…

ササハタハツまちラボが実施している、ササハタハツエリアで活動する方の主体的な取り組みを応援する事業「ササハタハツピープルまちづくりサポート(ササハピ)」で認定・登録されたプロジェクト。

▶狭い道路があり、防災上の課題がある

特に甲州街道の北部、本町エリアは幅4m未満の狭い道路の割合が高く、防災上の課題があります。「本町地区防災都市づくりランドデザイン検討会」においても、木造密集市街地の解消や避難場所、人とのつながりを強くするための取り組みについて検討が行われています。

特徴

B 自然・環境 玉川上水旧水路緑道を中心に、身近に自然を感じることができるまち

▶玉川上水旧水路緑道をはじめ、緑地が身近に存在

公園などのパブリックスペースは、自然に触れ合い憩える、日々の生活の中で重要な空間であり、また、様々な市民活動・コミュニティ醸成の場ともなる場所です。特に、ササハタハツエリアを横断する玉川上水旧水路緑道は緑が豊富であり、都市の中にある貴重な自然空間です。渋谷区の事業で玉川上水旧水路緑道再整備計画が進んでいます。

(次ページ参考)

甲州街道の南部は公園面積率が4%以上8%未満と比較的高い割合で分布していますが、北部は2%未満と低い数値となっています。

また、公園以外でも、再開発が行われたエリアには、公開空地が整備されている箇所もあります。緑地の創出と保全は、ヒートアイランド現象の緩和、都市型水害の抑制など、気候変動対策としても重要です。

[玉川上水旧水路緑道再整備イメージ コンセプト「FARM※」]



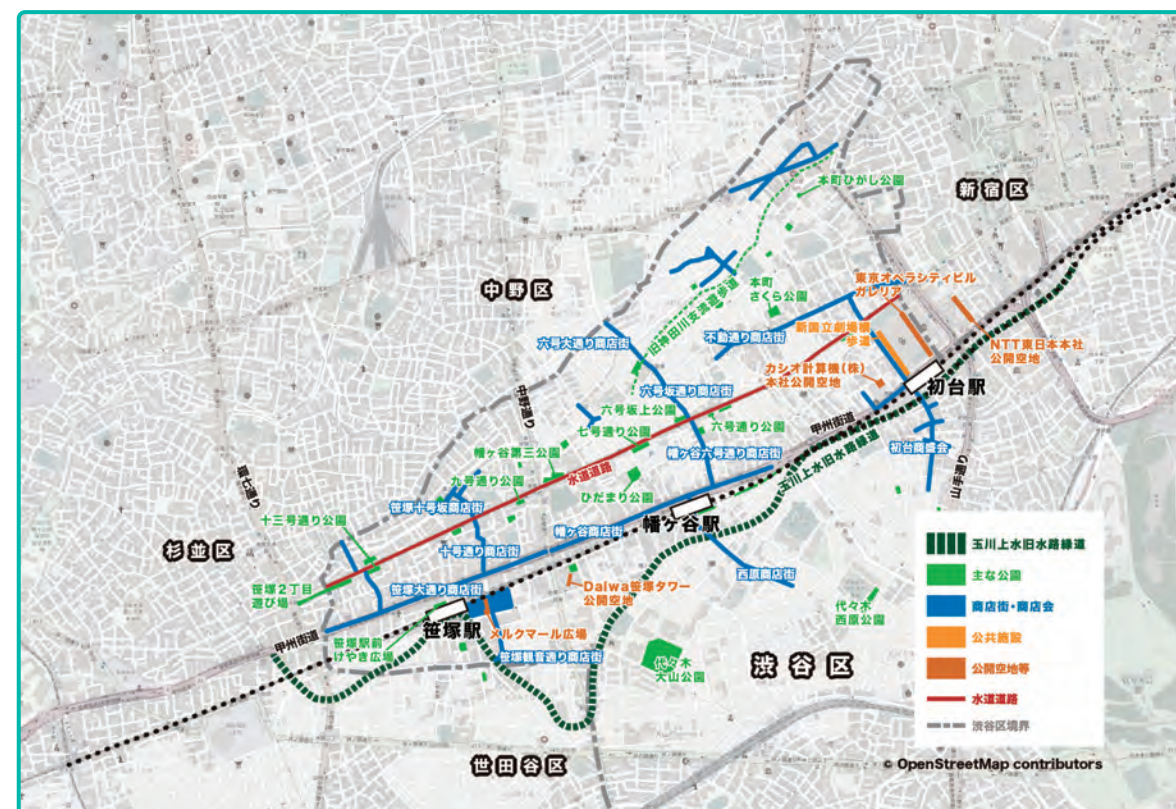
※玉川上水旧水路緑道再整備コンセプト「FARM(ファーム)」…

緑道を起点に「農」や「食」をテーマに地域の暮らしを豊かにすること、また緑道から新たな「創造活動」を育てること、という2つの意味を持つ。「FARM」は新しく整備された空間を指すこともある。

▶パブリックスペースの利用状況がまちまち

各エリアに公園はありますが、利用されている公園もあれば、十分に利用されていないものもあります。利用されている公園は、例えば保育園に近く、お迎え後に子どもたちが遊んでいる姿が見られます。逆に保育園に近いものの、利用されていない公園もあります。

[パブリックスペース・商店街の分布]



ササハタハツエリアビジョン検討委員会

「パブリックスペース分科会」「文化・芸術・歴史分科会」における調査結果及び渋谷区まちづくりマスタープランを元に作成

▶ 将来的な老朽化や維持管理不足は課題

公園の中には、老朽化した遊具や案内板、樹木の維持管理不足なども見られます。玉川上水旧水路緑道基本計画においても、既存公園施設の便所や遊具等の施設老朽化が指摘されています。

特徴

C 商業・賑わい 商店街を中心に、様々な魅力ある個店が集積するまち

▶ ササハタハツの各エリアには、古くから商店街が形成

ササハタハツエリアには、各駅を中心に商店街が形成されています。食料品店や日用品店、飲食店などが立地し、暮らしを支える店舗が充実しています。それぞれの商店街に歴史があり、都心にありながら「温かみのある」「古き良き」といった雰囲気を味わうことができます。地域密着型の店舗も多く、商店街を通じて地域の方々とつながりが持てることも魅力です。

第1回アンケート(2021年1月～2月実施)で街のイメージとして「商店街」と答えた方が7割以上と多く、残ってほしい街のイメージでも6割以上の方が答えています。

土地の評価の一つである路線価は甲州街道沿線が最も高く、エリア北部に比べ、エリア南部が高くなっています。駅周辺では、近年再開発が行われた笹塚駅周辺が高くなってきています。

▶ 個性ある魅力的な個店が増えつつある

駅周辺や商店街沿い以外においても、路地沿いなどに雰囲気の良い魅力的な個店が増えつつあります。そのような個店の広がりや賑わいは街の賑わいにつながるとともに、ササハタハツエリアを巡る楽しさの一つにもなります。

▶ 今後さらなる活用の可能性がある空間も

ササハタハツエリアには各駅前に商店街がありますが、それぞれの場所で完結しているため、各駅を越えて回遊したり、つながり合う活動はまだ少ない状況です。

現在再整備が計画されている玉川上水旧水路緑道や、未利用空間がある水道道路沿いの都営住宅など、各駅を越えてつなげるルートとして活用が期待される空間もあります。

特徴

D 歴史・文化・創造 まちの歴史を土壌に、新たな文化や魅力が生まれるまち

▶ 地域固有の歴史・文化の重層性を感じることができる

江戸の台地に開かれた水脈・玉川上水を始め、水の記憶が残る道路やかつての橋の番号が付いた活気ある商店街など、地域固有の歴史・文化を様々な場所から感じることができます。単に歴史ある場所が残るだけでなく、玉川上水旧水路緑道のように、歴史の上に現在の街並みがある「重層性」を感じることができる点も特徴です。



玉川上水旧水路緑道に残る橋の高欄。



玉川上水にかけられた「六号橋」が由来の幡ヶ谷六号通り商店街。

▶ 玉川上水旧水路緑道の歴史

江戸時代、飲料水の確保のため、幕府は承応2(1653)年、多摩川の水を江戸に流し入れる玉川上水を開削。水の乏しい武蔵野台地に多く分水され、飲料水や農業用水に利用されました。明治時代に近代水道の建設が進められたものの、導水路として引き続き使用され、代田橋付近から淀橋上水場までを結ぶ「玉川上水新水路」が明治31(1898)年に完成しました。しかし、その後昭和40(1965)年に利根川から東京に導水する「武蔵水路」が建設されたため、小平監視所からの下流部は導水路としての使命を終えました。

渋谷区内を流れていた玉川上水は、昭和50年代以降、笹塚駅付近の一部を残し、暗渠化され、その上部が緑道として整備されました。往時の遺構を残す緑豊かな空間となり、区民から深く親しまれています。平成15(2003)年には、羽村取水口から四谷大木戸までのうち開渠区間が国の史跡に指定されました。

玉川上水旧水路緑道基本構想(H29)を一部再編

▶ ササハタハツに関わる人々によるチャレンジを支える環境を有する

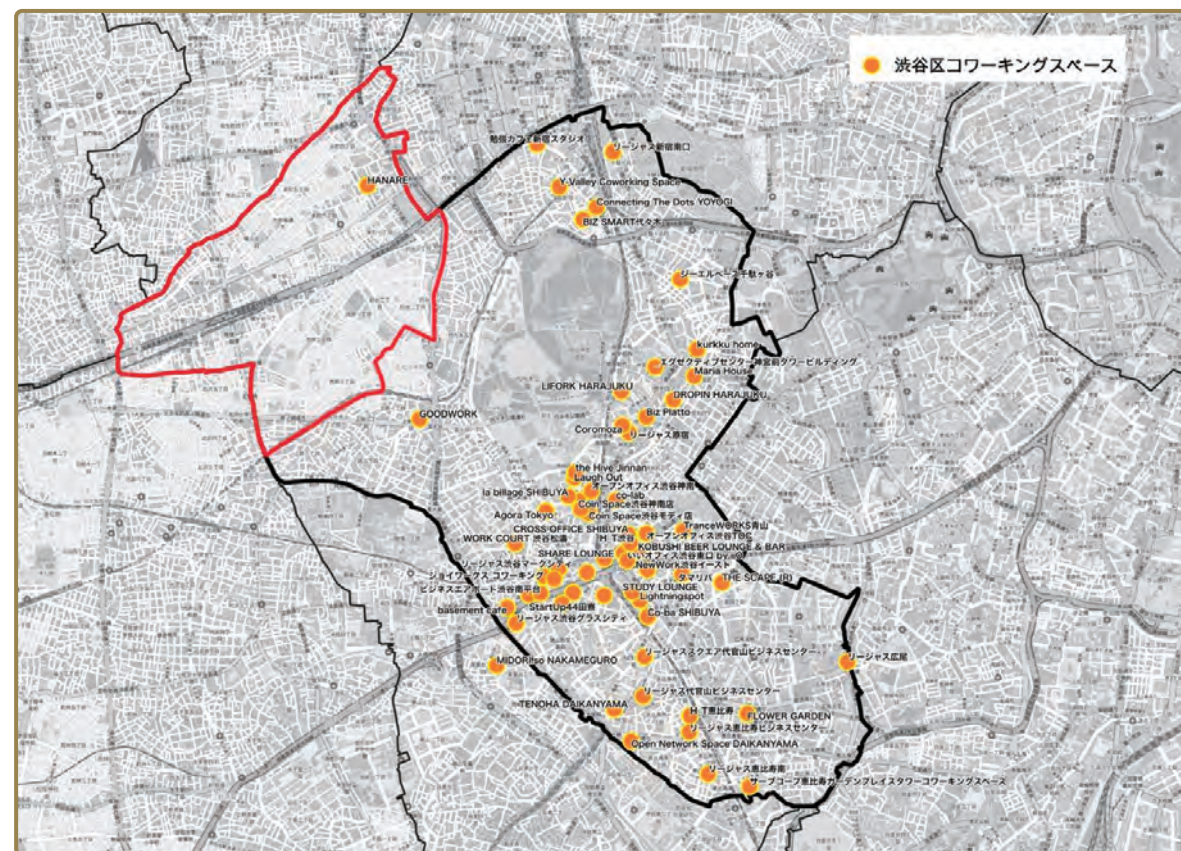
このエリアには、就労支援の施設やシルバー人材センター等の、多様な働き方を支援する施設があり、もともと多様な人の働きたいという気持ちをサポートする施設がある地域です。

ササハタハツまちラボのフューチャーセッションやプロジェクトの支援をとおり、ササハタハツエリアをさらに魅力的な街にするために活動する方が増えてきました。また、セッションをきっかけに新たな関係性が生まれ、エリアを越えた連携につながった事例もあります。

また、渋谷区内には多くのコワーキングスペースがあるものの、ササハタハツエリアには1件しかなく、多様な方が働きやすい環境は整っているとは言い難い状況です。

今後も、住んでいる人・学んでいる人・働いている人・訪れる人など多様な主体が共創しながら、まち全体がチャレンジする人・活動を育み、コワーキングスペース等の応援する環境を作っていく必要があります。

[渋谷区のコワーキングスペースの分布状況]



出典: ジャパンホームページ及びナレッジソサエティホームページ記載情報をもとに作成

エリアの特徴

特徴A コミュニティ・暮らしの【強み】

- 多くの居住者がいるエリアであり、多様なコミュニティ活動が行われています。
- 現在も人口が増加傾向であり、賑わいの維持が期待されます。
- ササハタハツエリアに関係のある方々へのアンケートでは、「住みやすい」「便利である」といったイメージを持つ方が7割以上を占めました。

特徴A コミュニティ・暮らしの【弱み】

- コミュニティを支える公共施設の中には築年数が経過し老朽化しているものがあり、その機能確保が必要です。
- 狭い道路が多く、災害時の避難や延焼等の課題があります。安全・安心の確保のためには、ハード的な解決だけでなく、多様な世代のつながりをつくっておくことが重要ですが、不十分であるという声も挙がっています。
- 高齢者人口が上昇している一方、医療福祉系産業の従業者数が少なく、エリア内での医療福祉サービスの充実を図る必要があります。
- 各エリアに足りないまちの機能・施設を新設する余力がありません。

特徴B 自然・環境の【強み】

- ササハタハツエリアは、都心部にありながら、玉川上水旧水路緑道を始め、身近に自然に触れられる機会の多いエリアです。
- 玉川上水旧水路緑道は「FARM※」というコンセプトで再整備が検討されており、新たな機能向上や農・食を通じたコミュニティ形成も期待されます。
- 各エリアに公園が存在し、コミュニティ活動の場としても活用が可能です。

特徴B 自然・環境の【弱み】

- 老朽化や維持管理不足が課題であり、そのことにより利活用しにくい印象を受けることがあります。
- アンケートからは、「公園の不足」「質の改善」に関する意見が挙がっています。近隣の利用者のニーズを踏まえ、有効に利活用される仕組みが必要です。

特徴C 商業・賑わいの【強み】

- 各駅前に商店街を有し、日常の買い物などの利便性があるだけでなく、地域のコミュニティを支える場にもなっています。
- 昔ながらの商店街からは風情も感じられ、都心にありながら温かみのある雰囲気を楽しむことができます。
- 古い建築物は多いですが、丁寧にリノベーションされた個性的な店舗も増えつつあります。個店の中には、集客だけでなく文化発信の拠点にもなっており、地域のイメージ向上に寄与しています。

特徴C 商業・賑わいの【弱み】

- 各駅個別で成り立っており、エリア全体で回遊・散策する動きはまだ少ない状況です。
- エリア内には古い建築物も多く、空き店舗・未利用地の利用促進、リノベーションの推進などが求められます。

特徴D 歴史・文化・創造の【強み】

- 地域固有の歴史・文化があり、その重層性がエリアの個性として現れています。
- まちづくりに取り組む人が連携し合う環境があり、さらなる展開が期待されます。

特徴D 歴史・文化・創造の【弱み】

- 地域固有の歴史・文化や新国立劇場などの文化施設があるにもかかわらず、アンケート調査では「歴史性がある」「文化・芸術・音楽に触れられる、行える」などに関する評価が低い状況であり、街の様々な歴史・文化が浸透していないと考えられます。
- 新しいチャレンジやビジネスを受け入れる場は十分ではありません。
- ササハタハツのまちづくりの認知度は十分ではありません。エリアをさらに盛り上げていくため、地域のブランド化・発信などに取り組む必要があります。

※玉川上水旧水路緑道再整備コンセプト「FARM(ファーム)」…緑道を起点に「農」や「食」をテーマに地域の暮らしを豊かにすること、また緑道から新たな「創造活動」を育てること、という2つの意味を持つ。「FARM」は新しく整備された空間を指すこともある。

ササハタハツエリアビジョンの作成プロセス

巻末資料

「ササハタハツまちラボ」の概要

「ササハタハツまちラボ」は、2020年に官民連携により共同で設立。京王線笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅のそれぞれ頭文字を採り、「ササハタハツ」と称している当エリアを、地域住民をはじめ、エリアに関わるあらゆる人々にとって魅力的なまちにしていくための活動を行う組織であり、ビジョン策定・運用の事務局を担っています。

目的 ササハタハツエリアでの暮らしの質の向上	実施事業(2022年3月現在) 1. コミュニティ活動支援・運営事業 2. 官民連携事業 3. ビジョン策定事業 4. 情報発信事業	会員(2022年3月現在) 渋谷区 京王電鉄株式会社 一般社団法人 渋谷未来デザイン
----------------------------------	---	--

「ササハタハツエリアビジョン」策定経緯の概要

ササハタハツエリアビジョンの検討は2020年度に開始し、この年度はこれまでのエリアの既往計画の整理や、統計資料や現地調査によるまちの分析を行いました。また、ササハタハツエリアに居住および関わりのある方が持つ街のイメージや取り組まれてほしいことについて、アンケート調査を実施しました。2021年度は、エリア内の様々なまちづくりの動きを糾合し、まちの中で目指すべき将来像を検討するための「ササハタハツエリアビジョン検討委員会」を設立し、公募で選ばれた9名の委員と学識経験者の委員1名、まちラボメンバーで、半年にわたり活発な議論を行いました。委員の方が自発的に運営した3つの分科会でも議論を深めていきました。また、第2回アンケート、第3回アンケートを実施し、ビジョンづくりへの参加や反映のための意見収集を行いました。

【策定経緯】

第1回アンケート	2021年 1月～2月	・10年後になってほしい街のイメージ、取り組み ・回答数:958件
第1回検討委員会	2021年 7月9日(金)	・2020年度検討における「まちの特徴と課題」の共有 ・「テーマ」の作成
第2回検討委員会	2021年 9月1日(水)	・「共通原則」の設定、「テーマ」の見直し ・テーマに基づいた「取り組み」の作成
第2回アンケート	2021年 9月	・「テーマ」、「取り組み」について ・回答数 個人向け:498件 企業向け:19件
検討委員会分科会の開催(1回目)	2021年 10月	・共通原則「インクルーシブ」分科会 ・テーマ「パブリックスペース」分科会 ・テーマ「文化・芸術・歴史」分科会
第3回検討委員会	2021年 11月4日(木)	・「共通原則」、「テーマ」、「取り組み」の見直し ・「ロードマップ」の作成
検討委員会分科会の開催(2回目)	2021年 11月～12月	・共通原則「インクルーシブ」分科会 ・テーマ「パブリックスペース」分科会 ※街歩きを行い、有効活用できそうな公共空間、民有地の探索 ・テーマ「文化・芸術・歴史」分科会
第4回検討委員会	2021年 12月23日(木)	・「将来像」「推進体制」の作成、「ロードマップ」「ビジョン(案)全体」の確認 ・ビジョン策定後の動き方
第3回アンケート	2022年 1月～2月	・「ビジョン(案)全体」について ・回答数:152件

「ササハタハツまちラボ」ウェブサイト

こちらのサイトからササハタハツまちラボの最新の活動やエリアビジョンをご覧ください。

- ▶ ササハタハツまちラボウェブサイト <https://www.sasahatahatsu.jp/>
- ▶ Facebook <https://www.facebook.com/388machilab/>

